

今週の為替相場見通し(2017年5月29日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.86 ~ 112.13	111.31	110.50 ~ 112.50
ユーロ	(ドル)		1.1160 ~ 1.1268	1.1175	1.1100 ~ 1.1250
(1ユーロ=)	(円)		124.10 ~ 125.80	124.38	123.00 ~ 126.00
英ポンド	(ドル)		1.2775 ~ 1.3043	1.2805	1.2600 ~ 1.2850
(1英ポンド=)	(円)	*	142.13 ~ 145.44	142.50	140.50 ~ 143.50
豪ドル	(ドル)		0.7422 ~ 0.7517	0.7445	0.7300 ~ 0.7550
(1豪ドル=)	(円)	*	82.52 ~ 83.89	82.91	80.50 ~ 84.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 坂本 真史

(1)今週の予想レンジ: 110.50 ~ 112.50 円

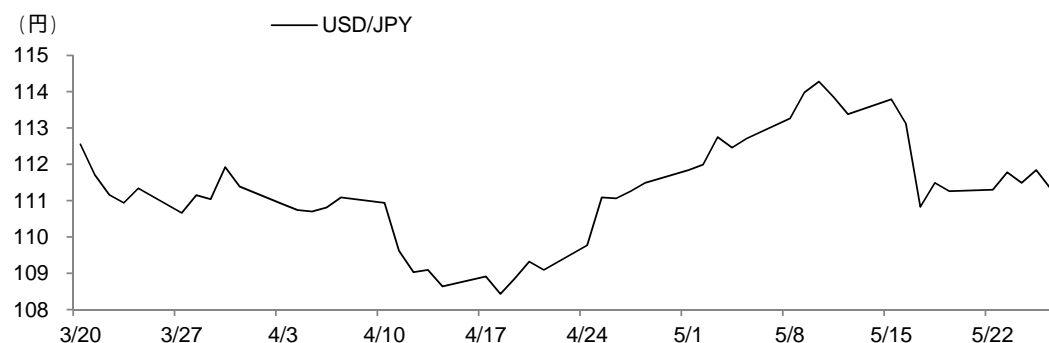
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は111円台で主に推移した。週初22日は111円台前半でオープン。前日に北朝鮮によるミサイル発射実験が行われたことでリスク回避の動きとなり週安値110.86円をつける。翌23日、111円台を回復する局面もあったものの、英国爆破テロ事件が発生したことで再び110.86円まで下落。但し、米国での活発な社債発行を背景に米金利が上昇する中、111円台後半まで反発した。週央24日、社債への資金流入により米5年債入札が軟調な結果になるとの見方から米金利が一段と上昇し、ドル円は週高値112.13円をつけた。しかし、同日に発表されたFOMC議事要旨では一部にハト派的な表現があったことから再び111円台半ばまで下落。翌25日には、ブレイナードFRB理事から「世界的に経済見通しは明るさを増している」との発言が報じられると111円台後半まで反発した。尚、石油輸出機構(OPEC)総会で減産措置を9か月間延長することで合意されたが、一段と踏み込んだ合意を期待していた向きもありWTI原油価格は前日比 5%程度下落した。週末26日、前日の原油価格下落や、英国の世論調査で与党保守党と野党労働党の支持率の差が縮小したことなどからリスクセンチメントは後退。ドル/円は再び110.88円まで下落した後、111円台前半で越週した。

今週のドル/円は方向感が定まらずレンジ推移になると考える。経済指標では30日(火)に米4月コアPCEデフレータ、31日(水)にページブック、6月2日(金)に米5月雇用統計が発表される。先週公表された米FOMC議事要旨では、足許のファンダメンタルズの弱さは一時的であることの証拠を待つのが賢明との見方もたものの、ブレイナードFRB理事によるタカ派的な発言もありドル円の反応は限定的だった。しかし、6月利上げを否定するほどではないとしても米国のコアPCEデフレータは2%を下回って推移しており、今回も前年比+1.5%と予想されている。労働市場が良好であることは利上げ実施の前提条件であろうが、物価動向も重要である。物価が想定している程上がらないとするならば、当該上昇の継続を確認する必要性から利上げベースに影響を与えよう。とは言え、利上げを決定するFRBメンバーによる利上げスケジュールを含めた総意は、6月会合の声明文やドットチャートを待たねばならない。斯かる環境下、上記経済指標の結果が大きく予想から外れない限り、ドル/円相場の振幅は限定的になりそうだ。その他のイベントとして、今週はFRB高官による講演が複数予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(5/22~5/26)の値動き: 安値 110.86 円 高値 112.13 円 終値 111.31 円



お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上